

令和4年度 伊勢山中学校 グランドデザイン



名古屋市学校教育の努力目標

ともに学び 自分らしく生きる

伊勢山中学校教育目標

責任を重んじ自主性と実践力のある生徒の育成

- 学校生活において自分の役割を自覚して誠実にやり抜き、その結果に責任を負う
- 何事も自分で考え、的確に判断し、根気よく努力する
- 自ら目標を見付け、計画を立てて実行する



<学習指導> 「生徒が夢中になって学ぶ授業の創造」

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現
 - ー 協働的な学び、学習の個別化・個性化
- ・ タブレットなどICT機器の効果的な活用
- ・ 生徒の「学び」を中心にする授業「分かった!」「できた!」
- ・ 指導と評価の一体化の実現
- ・ 特別支援教育の（視点での支援の）充実



伊勢山中学校 学校努力点



「なぜ」を問い、自ら学び行動する伊勢山中生

～見方・考え方を働かせ、学びを深める生徒の姿を目指して～



<特活指導> 「協働できる自立（自律）した社会人の育成」

- キャリア教育の視点での教育活動の整理と実践
 - ・ 総合的な学習の時間の体系化・系統化
 - ・ 自分の将来を自ら切り拓く力を育てる支援の充実
 - ・ ウィズコロナ時代の学校行事の持続・発展
 - ・ 生徒会活動の充実

<生徒指導> 「生徒の心を動かす生徒指導」

- 生徒の自立（自律）心、自尊感情、他者意識の育成
 - ・ 教育相談体制の充実
 - ・ 学校生活の望ましい在り方を考える場面の創出
 - ・ 道徳教育の充実
 - ・ サポートスタッフとの適切な協働

失敗を恐れず粘り強く挑戦を繰り返そうとする心と経験が、
互いに支え合い思いやり合う温かい心と経験が、

未来で力強く生きる礎となる

<学習指導> 「生徒が夢中になって学ぶ授業の創造」

○「主体的・対話的で深い学び」の実現

- ①個別最適な学び：個に応じた指導の重視 — 指導の個別化・学習の個性化
- ②協働的な学び：生徒同士・多様な他者との協働 — 探求的な学習・体験活動 ※2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

- ・各教科等における「見方・考え方」に基づき、期待する生徒像の実現のためのよりよい授業づくりを目指します。そのために、生徒が「分かる」「できる」を実感し、更なる「学ぶ」意欲を喚起することができるよう、授業をデザインします。
- ・タブレット等のICT機器を有効に活用して、生徒が主体的・協働的に、かつ意欲的に「学ぶ」授業を目指します。
- ・個別支援、オンライン授業の実践など、ICT機器を有効活用する場面の充実を目指します。

⇒ ICT研修、授業改善への取組（一人一実践の授業公開）、評価に関する学習会、ICT環境の充実

<生徒指導> 「生徒の心を動かす生徒指導」

○生徒の自立（自立）心、自尊感情、他者意識の育成（醸造）

- ・学級担任、学年職員、養護教諭、サポートスタッフ（SC、SSW、支援員、見守りサポーター等）による教育相談体制を充実させ、生徒が自らを大切にするとともに、自己を見つめ、自己に向き合って、失敗を恐れず前へ進もうとする心を支えます。
- ・生徒が、学校生活の在り方（挨拶、マナー・礼儀、校則等）を主体的に考え、支え合い思いやり合う「よりよい個の集合」としての集団（学級・学年・学校・部活動）形成ができるように支援します。

⇒ チーム伊勢山（教職員・サポートスタッフ）による支援体制の確立、自殺予防教育、各種アンケート調査（Hyper-QU、気づいてる？こころのSOS等）の有効活用、不登校生徒支援、校則の見直し・制服改定への取組、道徳教育の充実

<特活指導> 「協働できる自立（自律）した社会人の育成」

○キャリア教育の視点での教育活動の整理と実践

- ・卒業後、成人後の進路選択を見据え、進路（針路）指導と関わらせた目標設定をして、教科等横断的に総合的な学習の時間のカリキュラム整備を進め、実践します。
- ・キャリア教育の視点をもって学校・学年行事の在り方を考えるとともに、コロナ禍での試行錯誤の結果で得た成果を生かして持続・発展できる行事の在り方を追究し、生徒同士が支え合い、思いやり合う場面を創出します。
- ・JRCの精神を共有しつつ、生徒が自ら、より良い学校生活を創り上げることを目指して活動や運動の在り方を考え、推進できる生徒会活動を促進します。

⇒ 総合的な学習の時間における目標の設定、進路指導の充実、生徒会・委員会活動の活性化、JRC活動の継続・推進